



人間ドックにて偶然見つかった 甲状腺のしこり

近年の健康意識の高まりに伴い人間ドック時に動脈硬化の状態を調べる目的で頸動脈エコーを受ける方が増えています。

頸動脈は頭に血液を送る大事な血管で、左右に一本ずつあります。その頸動脈に挟まれ、気管の前面に甲状腺があります。頸動脈エコー検査時には、甲状腺も検査の範囲に入りますので甲状腺に何らかの異常があれば要精密検査の結果が送られてくることになります。



その異常のほとんどが甲状腺にできたしこりについてですが、もともと甲状腺にできるしこりには悪いものは少なく、多くは無症状のため、本人は気づくこともなく一生を全うしていました。しかし頸動脈エコーの普及とともに無症状の甲状腺の小さなしこりが見つかる機会が増え、検査のために専門の科を受診される患者さんが増えてきています。

検査の結果ほとんどの方が良性のしこりで心配ありませんが、中には悪性の結果が出ることがあります。甲状腺のしこりが悪性の場合、一番多いタイプが乳頭がんというタイプで悪性度によって治療方針が異なります。

頸動脈エコーで偶然発見される甲状腺乳頭がんのほとんどは悪性度が低いタイプが多いです。

頸動脈エコーで偶然発見される1センチ未満の悪性度の低い乳頭がんに対しては、すぐに手術する必要はなく慎重に経過観察を行い、増大傾向が認められた場合に手術を行う選択肢も最近では認められております。経過観察中ほとんどのしこりに変化はなく、中には小さくなるものもあります。なお増大傾向を認めてから手術を行っても不利益になることはありません。手術にて重篤な合併症が起こった場合の方が、その後の生活の質はかなり悪くなるので、1センチ未満の小さな乳頭がんでは手術するかどうかはよく主治医と相談されるといいでしょう。特に高齢の方であれば、甲状腺乳頭がんの進行は極めてゆっくりのため余命も考慮して手術を行うかどうかは慎重に考えられた方がいいでしょう。

